

全国協議会 ニュース

2016年2月1日発行 第284号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髓バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4KT ビル3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：野村正満 題字：仲田順和（会長）
http://www.marrows.or.jp E-Mail:office@marrows.or.jp

骨髓バンクの移植数 2年連続減少 さい帯血への移行目立つ

公益財団法人日本骨髓バンク（以下「財団」）はこのほど、昨年1年間の移植関連データをまとめましたが、年間の移植実施件数は初の「2年連続減少」となりました。1月22日の財団業務執行会議では「移植対象となる患者さんの数が減っているわけではないが、骨髓・末梢血幹細胞移植のコーディネート期間が短縮できていないなどの事情があるため、さい帯血移植などが選択されているからではないか」といった指摘も出されました。移植件数の減少は財団の財政にも影響するだけに、根本的な対応が求められるようです。

財団のデータによると、2015年1年間に財団を介した骨髓・末梢血幹細胞移植は1268例で、1993年からの累計では1万9009例となりました。年間移植件数は、2013年（1360例）を最高に、2014年（1332例）から2年連続の減少となっています。「前年割れ」は過去に2回（2003年と2010年）ありますが、いずれも翌年は増加に転じており、「2年連続減」は初めてです。

この間の患者登録数は2320人ですが、HLAフルマッチのドナー候補が1人以上あった患者さんは2208人（95.2%）だったのに対し、実際に移植を受けることができたのは1276人（55.0%）でした。HLA適合ドナーがいながら、移植に臨めなかった患者さんが相当数に上るわけです。

そうした患者さんは、統計上は「登録取り消し」の形でまとめられていますが、2015年（822人）の内訳をみると、死亡322（13.9%）、血縁・自家移植移行86（3.7%）、病状悪化56（2.4%）などがありますが、中でもさい帯血移植移行222（9.6%）が目立ちます。こ

のさい帯血移植移行だけを過去と比較すると、2010年から5年間ずっと右肩上がり、血縁・自家移植移行も漸増となっています。

このデータについては、業務執行会議でも「移植成績は移植時期によって左右される。時期を失うくらいなら、骨髓移植からさい帯血移植、あるいは

血縁・自家移植への移行を選ぶのではないか」という分析がありました。

つまり、骨髓バンクには「コーディネート」という調整作業が必要であり、それにかかる時間がなかなか短縮できないという実態があるのです。財団のデータによると、2015年のコーディネート期間（中央値）は2014年と全く同一で、患者さんの登録日～移植日で147日、ドナー指定日～採取日で122日でした。

コーディネート期間の短縮は以前から課題となっていますが、有効な対策がとられていません。一部関係者の中から「家族の同意や弁護士立ち合いを廃止することを考えてもいいのではないか」という声もありますが、患者さんが登録して移植までにはほぼ5カ月もかかってしまう現実を「なんとかする」には、小手先の変更ではなく抜本的な改革が必要になると考えられます。

全国協議会の国際協力事業 3月の学会でポスター発表

全国協議会は米国・デルタ航空のマイレージを活用した国際協力事業を進めています。この2年間の実績を名古屋で開催の日本造血細胞移植学会（3月3～5日）でポスター発表します。国際協力事業には「若手医療従事者の海外渡航援助」と「WBMT支援」の2種類あり、概要は次のとおりです。

【若手医療従事者援助】

造血細胞移植に関わる医療従事者（申請時点で満40歳以下）が海外での学会などに参加する際の往復航空チケットを提供するものです。これまでに5人（医師4人、理学療法士1人）が米国とシンガポールで開催の学会に参加しました。

【WBMT支援】

WHO（世界保健機関）の承認NGOである世界造血細胞移植ネットワーク

（WBMT）と全国協議会がパートナーシップ提携をしたことから、発展途上国における造血細胞移植の普及を目指すことなどを目的とした学術集会などが開催される際に、WBMT理事らの移動用航空券を提供するものです。これまで延べ19人に提供しました。

骨髓バンクの最新情報をお知らせする

骨髓バンク NOW

《財団マンスリーJMDP(1月15日発行)より抜粋》

■日本骨髓バンクの現状(2015年12月末現在)

	11月	12月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,785	2,083	456,980	656,957
患者登録者数	229	266	3,062	46,837
移植例数	107	89	—	19,009

■12月の区分別ドナー登録者数

献血ルーム／652人、献血併行型集団登録会／1,374人、集団登録会／0人、その他／57人

注) 数値は速報値のため訂正されることがあります。

■12月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 2,749人／20代 70,344人／30代 142,538人／40代 188,845人／50代 52,506人

■12月の20歳未満の登録者217人

■12月末までの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計数：140件

白血病フリーダイヤル
0120-81-5929

毎週土曜日10時から16時まで、治療や闘病生活のお悩みのお相談をお受けします。第2・4土曜日には専門医に直接相談できます。

ソニー生命がサポートしています。

「骨髓バンク」のノボリ多数

箱根駅伝 今年も患者さんにエール

「第92回東京箱根間往復大学駅伝競走」が1月2日(土)・3日(日)に開催され、今年も沿道に「骨髓バンク」のノボリを多数掲げ、骨髓バンクを皆さまに知っていただくよう、また、お正月も闘病されている血液疾患の患者さん・ご家族へのエールをテレビ画面をとおして伝えられるよう活動しました。プルデンシャル生命の皆さまにご協力いただいたのは11回目となり、加盟団体と全国協議会メンバーの取り組みは14回目となりました。箱根駅伝のコース沿道には、合計して400人近くが応援に駆け付けました。この活動は例年どおり、関東学生陸上競技連盟のご理解と、箱根・宮ノ下商店街の箱根駅伝応援実行委員会の皆さん、読売センター小田原中央の皆さん、鈴廣蒲鉾株式会社様、箱根恵明学園様のご助力・ご協力に支えられています。応援および募金・PR活動にご協力いただいたすべての皆さまに深く感謝申し上げます。当日の各地の雰囲気をお伝えします。



御成門

スタートからほぼ9分後の3km地点に御成門があります。テレビの中継では、ちょうど最初のCMが終わってすぐのところでした。しばらく前から1列になって走っている選手たちの右手には、朝日に反射する東京タワーが目に入ったことでしょう=写真上。

この場所は例年、プルデンシャル生命の社員さんと家族が最も多く詰めかける名所で、「骨髓バンク」の赤いノボリが多数目立ちます。

田町

東京の会、埼玉の会、千葉の会が沿道を陣取りました。2日は午前7時30分に集合し、まだ人出も少ない中、出場校の関係者とともに応援の準備開始。往路1区4.8km地点、日比谷通りから第一京浜国道に入る芝5丁目交差点。午前8時13分38秒、21人のランナーが集団でやってきました。8人で14本のノボリを掲げ、選手への声援と同時に、テレビ映像を通じて正月を病床で過ごす患者さんにエールを送りました。

翌3日は復路10区16.5km地点。午後1時過ぎに先頭が通過してから最後まで約30分、15人で同様に思いを送り続けました。録画を観たら往路復路ともしっかり映っていました。赤地に白抜き「骨髓バンク」の文字と我々の思いが患者さんに届いたでしょうか。みんな応援しています。頑張ってください！(公的骨髓バンクを支援する東京の会・松阪一紀)



戸塚

今年も家族で楽しんでまいりました。ティッシュとチラシもあったという間に配り終えました(*^_^*)

骨髓バンクや白血病、骨髓移植についての質問もあつたりしました。ご年配の男性から「息子に言うておきます」

という嬉しいお言葉もいただき、広報活動のお役に立つことができているという実感もあり、充実した活動でした。



ドナー登録をしてくださる方を増やすためというのはもちろんですが、私も駅伝の様子をテレビで見ている時に骨髓バンクのノボリを拝見し、とても勇気づけられたことを覚えていて、ベッドからテレビを見ている患者さんのためにという気持ちで振らせていただきました。来年もぜひ参加したいと思います。(横浜・宮本真樹)



箱根

宮ノ下の特設ステージの隣に骨髓バンクのブースが設けられ、ノボリを持って沿道でのアピール・ティッシュ・チラシの配布と募金活動を行いました。

呼び掛け中、お1人の婦人から「ノボリの所で一緒に写真を撮らせてください」と声をかけられました。「毎年ここで募金しています。駅伝と共に骨髓バンクへの募金で1年を出発するのを楽しみにしているんですよ」と言われ、びっくりするやら嬉しいやら。本当にありがたく思いました。

我が家では2013年1月に夫が骨髓バンクに患者登録。その後、骨髓移植を受け元気になりました。昨年・今年と同じ1月に感動と興奮の箱根駅伝で普及啓発活動していることに感無量です。これからも感謝の思いで活動していきたいと思っています。(千葉骨髓バンク推進連絡会・北村美和子)

「プルデンシャル生命」パワー全開

プルデンシャル生命保険株式会社は2006年より箱根駅伝の沿道に骨髓バンクのノボリを立てるボランティア活動を行ってくださっています。今年実際に沿道でノボリを立てられた社員の方からのコメントをご紹介します。



今回2回目の応援となり、社員のご家族含めて総勢29人の参加でした。社員全員がボランティアの趣旨を理解しており、白血病患者支援に繋がれば、という想いで参加させていただいております。選手を応援し



ながら、私たちが立てたノボリが、少しでもテレビに映って、「お正月に病氣と闘っている皆様に『元気』と『勇気』が届きますように!」と、心から願いつつ、選手が駆け抜けていくと、ちゃんとテレビにノボリが映ったかな? とみんなで気にしているような状況です。今後も活動をお手伝いさせていただこうと思います。(首都圏第二支社営業所長・佐藤勝博)



5~6年前から、総勢10人前後で応援に行っています。きっかけは「年末年始を病院で過ごさざるを得ない患者さんの力になる」とのお話を伺ったことでした。そんなことでお役に立てるのであれば、との思いから、毎年参加させていただいております。

応援も大切ですが、それより

もテレビ中継の「定点カメラ」や選手を追うカメラに、いかにノボリが映るかを意識しながらノボリを振っています。誘った友人たちも喜んでくれていますので、今後も継続して参加させていただくつもりです。(新橋支社ライフプランナー・川上欽通)



日赤が造血幹細胞移植事業広報誌「BANK! BANK!」を創刊

造血幹細胞移植事業広報誌「BANK! BANK!」がこのほど創刊されました。日本赤十字社血液事業本部造血幹細胞管理課が発行しているもので、A4判4ページ建てとなっています。

創刊号は表紙=写真=にタイトルとともに若い女性のイラストをあしらひ、若年層を中心に「手に取ってみようかな」と思われるよう「みんなでつながいのちのバトン」の文字が見えます。



ドナーさんの体験談を掲載しています。

季刊で、2万5000部の発行ですが、各地の献血ルームに置いてあるほか、骨髓バンク・さい帯血バンクポータル

二つ折りの中面では骨髓バンクやさい帯血バンクの仕組み、クイズ形式の国別ドナー登録者数などを紹介、最終の4ページ目では患者さんや

サイト「造血幹細胞移植情報サービス」のホームページ上でも読むことができます。<http://www.bmdc.jrc.or.jp/>

賛助会員の皆さま紹介

【一般賛助会員】

株式会社三ノ輪建設=東京▽野平晋作=神奈川▽岡智子=和歌山

【サポート会員】

中嶋雅秀=北海道▽上正原勝=群馬▽本保晴恵=東京▽岩崎茂樹・松本明子=神奈川▽清水和子=岐阜▽渡辺美由紀=愛媛

今日もFightでボランティア? ④ 2月といえば...? by 杉本 はるみ



佐世保西高2年生が研修旅行 造血細胞移植など学ぶ

長崎県立佐世保高等学校（古川美子校長）の2年生235人が昨年12月、3泊4日の関東研修旅行のため上京しました。同校恒例行事で、生徒は名所見学もそこそこに人文、社会経済、国際、理系、医療福祉の進学希望別に分かれての現地研修でしたが、医療福祉関係では2班計62人が健康診療センターや日赤本社などを訪れたほか、全国協議会から造血細胞移植やボランティア活動などについて説明を受けました。福成温さん（2年4組）から感想文が寄せられました。



骨髄バンクに関する研修を受けて、とても感動しました。各地での普及啓発活動を全国協議会がボランティアで行っているからです。何も利益がないのに、患者さんの命を救うための活動

をなさっておられるのはとても大変なことだと思いました。また、骨髄移植とはどういうものなのか私は知らなかったのですが、詳しい説明を聞くことによって理解を深めることができました。

病気になった骨髄液を健康な人のものと取り替える治療には、ドナーが必要です。しかし、ドナーを見つけるのが困難で、6割弱しか移植が行われていませんでした。また、移植には、患者さんにはもちろんドナーにも大きな負担がかかり、パンフレットのドナーの体験談を読んだときには、痛そうだし、少し怖いなと思いました。

そこで、さい帯血移植が生まれたわけですが、へその緒を使って移植をするという画期的な方法が、多くの患者さんを救っているという点で、素晴らしい発見だと感動しました。また、末梢血幹細胞移植という方法もあり、医療というのは絶えず進歩を遂げている



のだと、改めて思いました。

このように、医療の立場から、研究者の立場から、そしてドナーの立場から、それを支えるボランティアの立場から、多くの人が患者さんを助けようと努力されている姿に、骨髄採取を怖いと思ってしまった自分を少し恥ずかしく思いました。私も大人になったらドナーとして登録をしたいと思います。

今回の研修を通して、私はますます医療の分野に興味が湧きました。これからは大学に進学し、医療系の道に進めるよう、勉強をさらに頑張っていきたいと思います。



姫路 中高の吹奏楽と神戸大生の落語 クリスマスコンサートに200人



昨年12月26日の骨髄バンク支援「クリスマスコンサート2015」は相生市立那波中学校吹奏楽部＝写真上＝と兵庫県立相生高等学校の吹奏楽部、そして神戸大学落語研究会の方が出演してください、会場を盛り上げていただきました。

来場者はいつもより少し少なく、200人ほどでしたが、会場内は元気あふれる演奏が流れていました。受付では、国際ソロプチミスト姫路様、兵庫県立大学体育部の方、プメハナプラス

タジオの方々にお手伝いいただきました。また会場内では募金箱がまわり多くの方より募金をいただきました。

このようにこれからも、若い世代の人たちに、骨髄バンクを知っていただくためにも、このコンサートは続けていきたいと思っております。（姫路地区骨髄バンク推進センター・濱田恵子）

患者サロンでクレープづくり

「患者さんに外出と交流の機会を」という趣旨で始めた患者サロンの12回目のイベント『クリスマスだ！ク

レープを作ろう！』が12月20日（日）、全国協議会事務所で開催されました。

丁寧にクレープ生地を混ぜる人、フルーツを綺麗にスライスする人…参加したみんなで思い思いの具材でたくさんクレープを作り、昼食と共にお腹いっぱい食べ、たくさんおしゃべりもしました。プレゼント交換で気分はすっかりクリスマスの楽しい時間を過ごしました。

今回は2月21日（日）正午から「フォンデュパーティー」を行います。参加のご連絡は事務局まで！お待ちしております。

心からのご寄付に感謝申し上げます ●12月21日～1月20日(敬称略)

三井化学株式会社チビットワンコイン 現金 200,000円	山田 文仁 現金 2,000円	日根 和美 現金 10,000円
三井化学株式会社 現金 200,000円	青野 文仁 現金 2,000円	匿名 現金 2,000円
株式会社エアネット 現金 219,200円	大谷 巻枝 現金 5,000円	●志村大輔基金
東京港南マリーナロータリークラブ 現金 11,000円	大谷 貴子 現金 2,000円	志村 哲夫 現金 5,000円
藤波 敬子 現金 10,000円	山村 詔一郎 現金 2,000円	志村 励子 現金 5,000円
ダブルエスティガー 現金 30,000円	水谷 良吉 現金 6,000円	杉山 みちえ 現金 5,000円
ほこた塾 現金 10,000円	水谷 豊 現金 2,000円	築瀬 知雅子 現金 5,000円
ガロのお客様 現金 2,350円	安達 賀代 現金 2,000円	庄子 敏子 現金 10,000円
「ガロ」マイステージ出展者(君和田・松沢・山口・石山・鈴木・井口・大平・稲坂・田中・渡辺・三崎・紺野・三森 裕 現金 30,000円	桑原 敏雄 現金 2,000円	●募金箱
	桑原 康秀 現金 2,000円	箱根駅伝 宮ノ下募金 現金 48,999円
	匿名 現金 1,000,000円	ゴールドジム新神戸 現金 2,867円
	匿名 現金 5,000円	イオン九州株式会社イオン都城店 現金 4,982円
	匿名 現金 1,800円	足立眼科医院 現金 5,389円
	●佐藤さち子患者支援基金	

活動資金の支援をお願いします

銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 普通 5666655

郵便振替口座 00150-4-15754

口座名：特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会